

カレンダー

(ゴチックは本号に掲載の記事)

会 期	集 会 名 (会 場)	〔 掲 載 号 〕
学術集会・講習会		
2007年10月3日(水)~2008年2月15日(金)	平成19年度統計数理研究所公開講座(東京・統計数理研究所)	〔430〕
11月16日(金)~20日(火)	平成19年度菌学教育研究会「菌類の多様性と分類」後期講座(つくば市・菌学研究会筑波センター)	〔430〕
25日(日)	平成19年度自然史学会連合講演会「いきもの・ひと・みずの自然史」(草津市・滋賀県立琵琶湖博物館)	〔431〕
26日(月)~28日(水)	第17回染色体コロキウム(第58回染色体学会年会・第17回染色体コロキウム2007年合同年会)(神奈川県・総合研究大学院大学・葉山キャンパス)	〔430〕
27日(火)	第44回植物化学シンポジウム「ファイトケミカルゲノミクス」(東京・東京大学薬学部総合研究棟講堂)	〔429〕
12月6日(木)	第133回日本医学会シンポジウム「新しい技術がもたらす診断・治療の可能性」(東京・日本医師会館大講堂)	〔432〕
8日(土)	平成19年度ビタミンの日講演会「ビタミンと食品：健やかな生活のために」(名古屋市・名古屋大学 野依記念学術交流館カンファレンスホール)	〔432〕
15日(土)~16日(日)	第44回好塩微生物研究会(熊本市・熊本大学)	〔430〕
24日(月)~2008年1月6日(日)	ウインター・サイエンスキャンプ'07~'08	〔431〕
国際会議		
2007年11月19日(月)~23日(金)	第9回植物の嫌気応答に関する国際会議「作物と野生植物の冠水適応生物学」(The 9th Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis (ISPA) - Molecular, Physiological and Ecological Adaptations to Flooded Conditions by Crops and Native Plants -)	〔宮城県・ホテル松島大観荘〕〔423〕
12月9日(日)~14日(金)	第7回光合成生物におけるテトラピロール光受容体に関する国際会議(7th International Congress on Tetrapyrrole Photoreceptors in Photosynthetic Organisms; 7th ICTPPO)	〔京都・京都テルサ〕〔429〕
2008年1月25日(金)	第24回資源生物科学国際シンポジウム「微生物研究の新展開 - 資源・環境・ゲノム - 」(岡山・岡山大学創立五十周年記念館)	〔432〕
9月22日(月)~26日(金)	第18回国際生気象学会議(The 18 th International Congress of Biometeorology)	〔ICB2008〕(東京・タワーホール船堀)〔428〕

生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合の詳細については、本ニュースの巻末をご覧ください。

生物科学ニュース編集委員会 電話 03-3814-5461 (10時半から4時まで(水曜日のみ))

FAX 03-3814-6216 E-mail bsnews@bsj.or.jp

(社)日本植物学会, (社)日本動物学会へのお問い合わせは下記のとおりをお願いします。

(社)日本植物学会 電話 03-3814-5675 (9時半から4時半まで)

FAX 03-3814-5352 E-mail bsj@bsj.or.jp

(社)日本動物学会 電話 03-3814-5461 (9時から4時まで)

FAX 03-3814-6216 E-mail zsj-society@umin.net

公 募

- 2007年11月20日(火) 第7回内藤記念若手研究者海外派遣助成金(冬季)〔426〕
 20日(火) 第2回内藤記念フェロースhip(サバティカルリーグ)〔冬季〕〔426〕
 20日(火) 第33回内藤記念刊行助成金(学術図書)〔426〕
 20日(火) 第33回内藤記念刊行助成金(定期刊行物-学術雑誌)〔426〕
 30日(金) 第10回大学婦人協会守田科学研究奨励賞〔429〕
 12月7日(金) 平成20年度京都大学霊長類研究所共同利用研究員〔432〕
 10日(月) 第46回(平成19年度)下中科学研究助成金〔428〕
 10日(月) 平成19年度(財)昭和聖徳記念財団による学術研究助成〔430〕
 20日(木) ソルト・サイエンス研究財団平成20年度研究助成〔431〕
 31日(月) 平成19年度「風戸研究奨励賞」〔430〕
 2008年1月15日(火) 平成20年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究, 応用研究, 環境改善計画のための助成研究〔432〕
 2月20日(水) 第7回内藤記念若手研究者海外派遣助成金(春季)〔426〕
 20日(水) 第2回内藤記念フェロースhip(サバティカルリーグ)〔春季〕〔426〕
 29日(金) 2008年度山田科学振興財団研究援助〔430〕

求 人

- 2007年11月30日(金) 静岡大学理学部生物科学科准教授 1名〔431〕
 30日(金) お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 研究院 自然・応用科学系准教授 1名〔432〕
 12月6日(木) 京都大学霊長類研究所二ホンザル野外観察施設准教授 1名〔432〕

 学術集会

第133回日本医学会シンポジウム「新しい技術がもたらす診断・治療の可能性」が、12月6日(木)に日本医師会館大講堂(東京都文京区本駒込2-28-16)で開かれます。内容は次のとおりです。

1) 分子イメージング(東北大 TUBERO ナノメディシン・樋口秀男), 2) ナノメディシンが拓く未来医療: ピンポイント診断・治療の実現を目指して(東大疾患生命工学セ臨床医工学・片岡一則), 3) ゲノム抗体創薬(東大先端研システム生物学・児玉龍彦), 4) 細胞シートと再生医療(女医大先端生命医科研・岡野光夫), 5) カプセル内視鏡の現状と今後の展望(慶應大内視鏡セ・緒方晴彦), 6) ロボット手術: 安全, 確実な低侵襲治療を目指して(九大先端医療医学・橋爪 誠)/総合討論

参加費は不要です。出席者は討論に参加できます。参加ご希望の方は、「FAX 送信」, 「郵便はがき」または「日本医学会ホームページ登録」で申し込んでください(記入項目: 氏名, 住所, 電話, 職業)。参加申し込み後10日以内に本会より入場券を送付します(定員に達した

場合は送付しません)。定員は500名(先着順)です。

〔問合先〕 113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16 日本医師会館内 日本医学会 TEL 03-3946-2121(代) FAX 03-3942-6503 ホームページ <http://www.med.or.jp/jams/>

平成19年度ビタミンの日講演会「ビタミンと食品: 健康やかな生活のために」が、12月8日(土)(午後1時~5時)に、名古屋大学野依記念学術交流館カンファレンスホール(名古屋市中種区不老町)で開かれます。内容は次のとおりです。

講演 1) 抗酸化食品と健康(名古屋大院・大澤俊彦), 講演 2) ビタミン C と健康(名古屋大院・堀尾文彦), 講演 3) B群ビタミンの役割と健康(中部大・柘植治人), 講演 4) ビタミン E と健康(名古屋学芸大・池田彩子)。

参加費は無料です。参加の詳細は下記に問い合わせてください。

〔問合先〕 464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 生命農学研究科 吉村 徹 TEL 052-789-4132 FAX 052-789-4120 E-mail yosimura@agr.

nagoya-u.ac.jp

〔連絡先〕 606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9 京大会館2階 「ビタミンの日」委員会事務局 TEL & FAX 075-751-5657 E-mail vitaminh@joy.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.gak.co.jp/vitaminh/>

国際会議

第24回資源生物科学国際シンポジウムが、2008年1月25日(金)午前9時30分～午後5時10分)に、岡山大学創立五十周年記念館多目的ホールで開かれます。内容は次のとおりです。

テーマは、「微生物研究の新展開 - 資源・環境・ゲノム -」です。

本シンポジウムは、資源・環境・ゲノムに関する最新の微生物研究を、最先端の研究者が報告し今後を展望します。資源では、微生物の環境中での役割と有用微生物の獲得を中心に、環境では、自然界での汚染物質分解のみならず、体内環境への感染とその対策も含めて展望します。また、ゲノムにおいては、環境ゲノムと病原性細菌のゲノム解析プロジェクトを中心に、今後の展開を展望します。

「微生物生態と資源」(ミシガン州立大・James M. Tiedje), 「微生物資源の獲得」(岡山大・金原和秀), 「バイオフィルムの形成と対策」(岡山大・公文裕巳), 「土壌環境中での遺伝子発現」(ブリティッシュコロンビア大・William W. Mohn), 「Rhodococcus 属細菌の物質代謝の多様性」(長岡技術科学大・福田雅夫), 「環境微生物のゲノム解析」(カーディフ大・Andrew J. Weightman), 「環境メタゲノムの解析」(米国 DOE-JGI・Philip Hugenholtz), 「病原性大腸菌のゲノム解析とその応用」(宮崎大・林 哲也)/懇親会

入場は無料です。懇親会は、会費制(要予約)です。詳細は下記に問い合わせてください。

〔問合せ先〕 710-0046 倉敷市中央2-20-1 岡山大学資源生物科学研究所 金原和秀 TEL & FAX 086-434-1235 E-mail kimbara@rib.okayama-u.ac.jp ホームページ <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/sympo/index.html>

公 募

平成20年度京都大学霊長類研究所共同利用研究員が募集されています。

霊長類に関する共同利用研究員を以下の3区分で募集します。

(A) 計画研究：所内の教員を推進者とする課題()について、所外の研究者との緊密な連絡のもとに進められる共同研究。

課題についてはHP (<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>)をご覧ください。

(B) 自由研究：霊長類研究の総合的発展を目指し、応募者の自由な発意に基づき行われる自由研究。

(C) 施設利用：当研究所の研究設備および資・試料を利用できます。提供できる資・試料は次のとおりです。体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙、骨格、排泄物、その他(生体利用・行動観察含む)施設利用に関しては年度途中でも随時申請を受け付けております。

計画研究、自由研究では共同研究に必要な研究費等を申請することができます。

申請資格は、平成20年4月1日時点において、大学・研究機関の研究者および大学院生またはこれらに相当する方(見込みを含む)です。研究期間は、平成20年4月1日～平成21年3月31日です。申請締切は、平成19年12月7日(金)必着のことです。詳細は霊長類研究所ホームページ (<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>)をご覧ください。申請用紙も同ホームページよりダウンロードしてお使い下さい。

〔申請先〕 京都大学霊長類研究所 研究助成掛

〔問合せ先〕 484-8506 愛知県犬山市官林41-2 TEL 0568-63-0513 FAX 0568-63-0085 E-mail kenkyu-josei@pri.kyoto-u.ac.jp

平成20年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための助成研究が公募されています。

研究対象テーマは、1) 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究、2) 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究、3) 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究、4) シンポジウム、音楽会或いは出版などによる環境啓発活動や、歴史的な遺産或いは社会システムの維持保全・回復運動など、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの、です。公募締切は平成20年1月15日(火)です。詳細は下記へ問い合わせ下さい。

〔問合せ先〕 150-0002 東京都渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷

地下鉄ビル内) 事務局(財)とうきゅう環境浄化財団
TEL 03-3400-9142 FAX 03-3400-9141 ホームページ
<http://home.q07.itscom.net/tokyuenv>

求 人

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 研究院
自然・応用科学系で准教授1名(運営費交付金による雇
用)が公募されています。

専門分野は、生物多様性およびその関連分野です。生
物を遺伝子、個体、集団としてとらえる生命科学分野
(進化、生態なども含む)での研究に意欲的に取り組む
方を望みます。担当授業科目は、(大学院博士前期・後
期課程)ライフサイエンス専攻の植物科学を中心とした
講義、演習および研究指導と、(学部)理学部生物学科
等の植物科学を中心とした講義、実習および研究指導で
す。採用予定は平成20年4月1日です。

応募資格は、1)博士の学位を有する方、2)大学院
での研究指導のできる方です。

提出書類は、1)履歴書(写真貼付、学歴・職歴・研
究歴・所属学会・住所・E-mail アドレス等を明記のこ
と。)、2)研究業績一覧、3)主な論文等の別刷りまた
は写し(5編以内各3部 業績一覧中に 印を付すこ
と)、4)その他参考となる資料(研究資金の取得実績、
受賞歴、招待講演等)、5)これまでの研究概要および
着任後の研究計画(A4判3枚程度)、6)これまでの
教育経験および教育・研究指導についての抱負(A4判
1枚程度)、7)女子大学に教員として就職することへ
の抱負(1,000字程度)、8)応募者について所見を求め
得る方3名の氏名および連絡先、9)返信用葉書(書類
受理通知用、宛先明記のこと)、10)応募書類返送用封
筒(切手貼付、返送宛先明記)(応募書類は返却します)。
選考方法は、1)第1次選考 書類審査、2)第2次選
考 第1次選考合格者のみ面接審査します。提出期限は、
平成19年11月30日(金)です。封筒表に「生命科学教員
応募書類在中」と朱書きし、書留または簡易書留で郵送し
てください。

〔書類提出先〕112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お
茶の水女子大学長 郷 通子宛

〔問合先〕大学院人間文化創成科学研究科 研究院 自
然・応用科学系 小林哲幸 E-mail kobayashi.tetsuyuki@ocha.ac.jp (お問い合わせは電子メールでお願いします)

京都大学霊長類研究所ニホンザル野外観察施設で准教
授1名が公募されています。

ニホンザル野外観察施設は、全国数カ所に研究林およ
び観察所を保有し、社会・生態を中心とした野外研究を
おこなうとともに、それらの地域をはじめとする各地の
ニホンザルの保護・生態管理、研究条件の維持、共同利
用研究の推進等を業務としています。なお当施設は、現
在構想されている京都大学野生動物研究センター(仮称)
が設置された場合、当該研究センターへの配置換えが予
定されていることを申し添えます。

広い視野に立ってニホンザルを中心とした霊長類の研
究を進め、後進の指導、教育、研究所の運営に寄与され
る方を望みます。

本研究所は進化系統研究部門(形態進化、集団遺伝、
系統発生分野)、社会生態研究部門(生態機構、社会構
造分野)、行動神経研究部門(思考言語、認知学習、行
動発現分野)、分子生理研究部門(器官調節、遺伝子情
報分野)の4部門と、ニホンザル野外観察施設、人類進
化モデル研究センターの2附属施設、プロジェクト形式
で推進されている流動部門多様性保全研究分野、および
二つの寄附研究部門「比較認知発達(ベネッセコーポレ
ーション)研究部門」と「福祉長寿研究部門」で構成さ
れている全国共同利用研究所です。霊長類研究所につい
てのその他の情報は研究所のホームページ(<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp>)でも見ることができます。採用
予定は2008(平成20)年3月1日です。

応募に必要な書類(各3部、コピーでも可)は、1)
履歴書、および特記すべき学会活動歴、外部資金(科研
費等)の受領歴、2)研究論文の目録と別刷(重要なも
のは投稿中の原稿も含めてよい)、3)研究論文以外の
印刷公表物の目録と主なものの別刷、4)これまでに行
ってきた研究内容の要旨(3000字程度)、5)本研究所
に採用された場合に行おうとする研究の主題とその目
的・方法などの要旨(3000字程度)です。応募の締切は
2007(平成19)年12月6日(木)必着)です。なお、封筒
に「ニホンザル野外観察施設准教授人事」と朱書きし、書
留郵便にてお送りください。

選考は、外部委員を含めた人事委員会の審議を経たう
えで、協議委員会で決定します。なお、選考に関する審議
内容は公表致しません。選考結果は、当該個人に関する
結果だけを応募者にお知らせいたします。

〔応募書類送付先〕484-8506 愛知県犬山市官林41-2
京都大学霊長類研究所長 松沢哲郎

〔問合先〕 本研究所内 渡邊邦夫 (watanabe@pri.kyoto-u.ac.jp) TEL 0568-63-0582 FAX 0568-62-9575

書 評

地球環境と生態系 - 陸域生態系の科学 武田博清, 占部城太郎編, 共立出版, 2006年, 282頁, 4,000円 (本体価格)

本書はプロジェクト研究の成果を踏まえて、プロジェクト参加者が執筆したもののことであるが、基本事項がおさえられていて、単なる研究成果の紹介ではなく、きちんとした教科書として読むことができる。むしろ、表紙のデザイン、装丁、活字の組み方などは、いかにも昔ながらの教科書という感じを漂わせており、若い学生がそのような教科書然としたところを敬遠するのではと心配になるぐらいである。湖沼・河川を含む陸域の生態系の炭素の収支・フローがさまざまな異なるレベルで解説されており、中でも環境を考える単位として流域に注目している点は、近年の研究の方向を示しているであろう。おそらく生態学の学問としての特徴なのだと思うが、第1章の光合成の部分は例外として、さまざまな自然現象について、個々の細かい中身は全くのブラックボックスのまま議論が進められる。生理学者から見ると、是非とも、そのブラックボックスの中のメカニズムを知りたいと思わせる興味深い現象がたくさんあり、本書は、生理学者にとっても示唆に富む本だと言える。本書で紹介されているさまざまな事例は、その環境に依存して大きく異なり、貧栄養の湖と富栄養の湖では炭素は異なる動きを示し、熱帯林の解析結果は亜寒帯林に適用できるとは限らない。題名にもある「地球環境」という観点から考えた場合、そのような異所性・異方性をどのように処理するか、という点が問題になるだろう。本書では、研究例の数を増やして、より細かいメッシュに分割して全体を足し合わせる方向が想定されているようであるが、少ないパラメータによって経験的に一次生産などを推定する筑後モデルのような方法論とどのようにかみ合うのかなど、地球規模での見積にいたる過程についてももう少し触れてもよかったのではないかと思う。

(東京大学・新領域 園池公毅)

図説 哺乳動物百科 第1巻 総説・アフリカ・ヨーロッパ 遠藤秀紀監訳, 朝倉書店, 2007年, 86頁, 4,500円 (本体価格)

本書, 図説 哺乳動物百科 全3巻の第1巻の総説では、動物における社会構造の多様性をとらえ、草食・肉食動物と霊長類の解説が行われていて、大まかにつかみやすい。特に「頭飾り」ではサイの角はびっしりと絡み合った「毛」である。とか「牛の角は洞角と呼ばれるものでこれは一生伸び続ける。」など興味がわいた。

この図説に挿入されている写真で気づくのは、迫力ある動物のハンティングや、生活の様子が生々しさに交え、時にはファンタスティックに表現されているのには特に目を引いた。

アフリカの項では、「アフリカで生まれたサルのような生物が、600万年前人間に似た生物へ変化し始める。おそらくこれが人類の祖先だろう」と人類誕生の起源を明確にしているのも評価に値する。草原、砂漠、山地、湿地、森林とそれぞれの生息環境に適した動物が生き生きと描かれている画像が、カメラマンの一瞬をとらえるためのプロの技と魂がグッと伝わってきた。

ヨーロッパの項においては、人類が営々と築いてきた生活環境が野生動物にとっては生息範囲の縮小が余儀なくされてきていた。それに追い討ちをかけるように、「狩猟や駆除の影響もあると考えられる。大型の野生哺乳類の将来は特に危ぶまれている」とますます彼らの生きる環境が狭められていることを訴えながら、それぞれの動物が伸び伸びと自然を満喫している姿がほほえましく描かれている。

哺乳類の分類や用語解説がついているのは、これから動物に興味を持ち、本書を紐解いたとき役に立つのでよいと思う。本書により新たな哺乳動物へのファンが増えることでしょう。

((財)環境科学総合研究所 勝倉光徳)

光合成の科学 東京大学光合成教育研究会編, 東京大学出版会, 2007年, 291頁, 3,800円 (本体価格)

『光合成』を『勉強の対象』から『研究の対象』として認識するにあたり有用であるのが、本書である。光合成という事柄に対し、現在までに解明されていること、未だに解明されていないことを明言することで、これから光合成を研究していこうとする学生達に、自身の研究の方向性を確立させるヒントを与えてくれるだろう。使われている図や写真が、モデルではなく、実存の論文からの引用物が多いという点でも、実際の研究現場を垣間見たような気分になることができる。

本書は、東京大学教養学部の『光合成ゼミ』の講義を

元にした解説書ということで、掲載されているトピックの範囲は実に広い。葉の解剖学から、葉緑体ゲノム、地球生態系に関するものまでである。盛りだくさんの内容ながら、単に専門用語を寄せ集めた辞書・辞典でも、図説資料でもなく、じっくりと読ませる解説書として成功している。これは、1つのトピックに対し複数に先生方が討議を重ねながら執筆されていることで、すべてのトピックが違和感なくつながっていることにあるだろう。文章体が統一されていることも、思わず休憩無しで読み進めてしまう原因かもしれない。

評者が特に強い印象を受けたのは、13章である。植物を、植物が行う光合成を、環境汚染や地球温暖化防止という問題に対し、それらに役立つ道具として見るのではなく、代謝を行う生物という観点で見た場合の科学的見地を伺うことができる。

巻末に、参考文献や教科書・関連書なども多く紹介されているので、これから光合成を研究していこうと思う後輩たちは是非ご一読頂きたい。興味がある分野を、本書を読むことで見つけ、関連書籍で知識を深めてもらいたい。

(大阪大学大学院・理学研究科・生物科学専攻
柳田小百合)

寄贈図書の書評希望者募集

生物科学ニュース編集委員会では、本委員会に寄贈されました下記の本の書評希望者を募集いたします。謝礼と致しまして書評した本を差し上げます。希望者は編集委員会まで葉書、FAXまたはEメールでご連絡ください。書評をお願いする場合は本と執筆要領をお送りいたします。但し希望者多数の場合、どなたをお願いするかは編集委員会に一任願います。尚、出版社より編集委員会に書評依頼のあった単行本以外の書評、および書評の投稿は受け付けておりませんのでご了承ください。お書きいただいた書評は、生物科学ニュースのみならず、日本動物学会および日本植物学会のホームページにも掲載される場合があります。この点を、あらかじめご了承ください。

マネジメントの生態学 - 生態文化・環境力回復・環境経営・資源循環 - 鈴木邦雄著 304頁 2006年 共立出版 3,300円(本体価格、以下同)/新・生命科学ライブラリ B5 細胞の形とうごき V 細胞の運動と制御 大日方昂著 206頁 2006年 サイエンス社 2,200円/

よみがえる恐竜・古生物 ティム・ヘインズ、ポール・チェンバース著 椿 正晴訳 群馬県立自然史博物館監修 215頁 2006年 ソフトバンククリエイティブ 2,800円/環境生物科学 - 人の生活を中心とした - (改訂版) 松原 聰著 236頁 2006年 裳華房 2,600円/動物学名の仕組み - 国際動物命名規約第4版の読み方 - 大久保憲秀著 301頁 2006年 伊藤印刷出版部 2,858円/ヒグマ学入門 - 自然史・文化・現代社会 天野哲也、増田隆一・間野 勉編著 273頁 2006年 北海道大学出版会 2,800円/ネズミの分類学 - 生物地理学の視点 金子之史著 302頁 2006年 東京大学出版会 5,000円/発生遺伝学 - 脊椎動物のからだと器官のなりたち 武田洋幸、相賀裕美子著 197頁 2007年 東京大学出版会 3,400円/鳥類学用語集 日本鳥学会用語委員会編 343頁 2006年 日本鳥学会 3,000円/自然再生のための生物多様性モニタリング 鷲谷いづみ、鬼頭秀一編 233頁 2007年 東京大学出版会 2,400円/免疫 からだを護る不思議なくみ第4版 矢田純一著 182頁 2007年 東京化学同人 1,800円/生物がつくる 体外 構造 - 延長された表現型の生理学 - J・スコット・ターナー著 滋賀陽子訳 深津武馬監修 333頁 2007年 みすず書房 3,800円/分子遺伝学入門 - 微生物を中心にして - 東江昭夫著 260頁 2007年 裳華房 2,600円/生物の多様性ってなんだろう? - 生命のジグソーパズル - 学術選書027 京都大学総合博物館・京都大学生態学研究センター編 313頁 2007年 京都大学学術出版会 1,800円/図説 哺乳動物百科 第2巻 北アメリカ・南アメリカ 遠藤秀紀監訳 80頁 2007年 朝倉書店 4,500円/動物生理学 [原書第5版] - 環境への適応 - クヌート・シュミット=ニールセン著 沼田英治・中嶋康裕監訳 578頁 2007年 東京大学出版会 14,000円/コア講義 分子生物学 田村隆明著 132頁 2007年 裳華房 1,500円 [連絡先] 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集委員会 FAX 03-3814-6216 E-mail mkato@cc.ocha.ac.jp または chu@hc.cc.keio.ac.jp

生物科学ニュース書評用図書

生物科学ニュース編集委員会宛に以下の本が寄贈されました。(2007年5月 - 2007年10月分)

日本海草図譜 大場達之、宮田昌彦著 114頁 2007

年 北海道大学出版会 24,000円(本体価格,以下同)/朝日選書 植物の生存戦略-「じっとしているという知恵」に学ぶ「植物の軸と情報」特定領域研究班編 248頁 2007年 朝日新聞社 1,260円/シンカのかたち 進化で読み解くふしぎな生物 遊磨正秀,丑丸敦史監修 北海道大学 CoSTEP サイエンスライターズ著 215頁 2007年 技術評論社 1,580円/免疫 からだを護る不思議なしくみ 第4版 矢田純一著 182頁 2007年 東京化学同人 1,800円/キャンベル生物学 Campbell and Reece 著 小林 興訳 1494頁 2007年 丸善 15,000円/ヒトは食べられて進化した ドナ・ハート,ロバート・W・サスマン著 伊藤伸子訳 376頁 2007年 化学同人 2,200円/兵庫の自然今昔 兵庫県生物学会60周年記念誌 兵庫県生物学会編 126頁 2007年 兵庫県生物学会 2,000円/光合成の科学 東京大学光合成教育研究会編 291頁 2007年 東京大学出版会 3,800円/図説 哺乳動物百科 第1巻 総説・アフリカ・ヨ

ーロッパ 遠藤秀紀監訳 86頁 2007年 朝倉書店 4,500円/野生馬を追う-ウマのフィールド・サイエンス- 木村李花子著 198頁 2007年 東京大学出版会 2,800円/分子遺伝学入門-微生物を中心にして- 東江昭夫著 260頁 2007年 裳華房 2,600円/生物の多様性ってなんだろう? -生命のジグソーパズル- 学術選書027 京都大学総合博物館・京都大学生態学研究センター編 313頁 2007年 京都大学学術出版会 1,800円/図説 哺乳動物百科 第2巻 北アメリカ・南アメリカ 遠藤秀紀監訳 80頁 2007年 朝倉書店 4,500円/動物生理学[原書第5版]-環境への適応- クヌート・シュミット=ニールセン著 沼田英治・中嶋康裕監訳 578頁 2007年 東京大学出版会 14,000円/コア講義 分子生物学 田村隆明著 132頁 2007年 裳華房 1,500円

生物科学ニュース編集委員会